

災害時のためのチェックシート

日ごろから実際に震災に直面した時のために備えを心がけておくことが、災害の軽減につながります。いざという時にあわてず適切な行動ができるよう下記シートをお役立てください。

■非常用持出品チェックシート

避難するときにまず持ち出すべきものです。非常用持出袋に入れ、玄関など持ち出しやすい場所に置いておきましょう。

| 貴重品類 | |
|---|--------------|
| 10円玉は公衆電話用に。通帳、カード、健康保険証、運転免許証などは番号を控えたメモかコピーを用意しておくといでしょう。 | 現金 10円玉 |
| | 預金通帳 |
| | 印鑑 |
| | 保険証 |
| | 免許証 |
| | マイナンバーカード |
| 避難用具 | |
| 懐中電灯はできれば一人に一つ用意したいもの。 | 懐中電灯 |
| | 携帯ラジオ |
| | 予備の乾電池 |
| | ヘルメット・防災ずきん |
| 生活用品 | |
| 避難所生活に最低限必要なものです。赤ちゃんやお年寄り、障害者がいる場合など考慮して揃えましょう。 | マスク |
| | 厚手の手袋・ゴム手袋 |
| | 毛布 |
| | 缶切り |
| | ライター・マッチ |
| | ナイフ |
| | 携帯用トイレ |
| 救急用具 | |
| 救急箱には絆創膏・消毒液など。その他ビタミン剤など日頃使っているサプリメントなどもあるといでしょう。 | 救急箱 |
| | 処方箋の控え |
| | 胃腸薬・便秘薬・持病の薬 |
| | 生理用品 |
| 非常食品 | |
| 最低3日分は用意しましょう。そのまま食べられるものが便利です。 | 乾パン |
| | 缶詰 |
| | 栄養補助食品 |
| | アメ・チョコレート |
| | 飲料水 |
| 衣料品 | |
| 衣類は動きやすいものを選びましょう。セーターなどの防寒具も寒い季節には役立ちます。 | 下着・靴下 |
| | 長袖・長ズボン |
| | 防寒用ジャケット・雨具 |
| その他 | |
| | 携帯用カイロ |

■備蓄品チェックシート

備蓄品は、災害復旧までの数日間を自足できるように準備しておくものです。災害後に取りに行けるよう、倉庫や車のトランクなどに分けて備蓄しておくとい便利です。

| 食料品 | |
|-------------------------|---|
| レトルト食品(ごはん・おかゆなど)・アルファ米 | |
| インスタントラーメン・カップみそ汁 | |
| 飲料水 | 1日3ℓが目安です。3日分は備えましょう。 |
| 生活用品 | |
| 給水用ポリタンク | ポリタンクには日頃から水道水をためておくとい災害時、生活用水に役立ちます。 |
| カセットコンロ | |
| マスク | |
| ティッシュペーパー・ウェットティッシュ | ウェットティッシュは入浴できない災害時には体が拭けるなど重宝します。 |
| ラップフィルム | 食器の上に敷けば洗う必要もありません。 |
| 紙皿・紙コップ・割り箸 | |
| 簡易トイレ | |
| 水のいらないシャンプー | |
| ビニール袋 | 雨具や敷物、簡易トイレとしても使用可能。プライバシー保護のため透けないものを。 |
| ロープ | 救助活動の際に使えます。 |
| 工具セット | |
| ほうきとちりとり | ガラスや倒壊物の除去に役立ちます。 |
| ランタン | |
| 長靴 | 瓦礫などから足を保護するために。 |

■常時携行品チェックシート

外出先で被災する場合もあるので、必要なものは常に身に付けておきたいものです。コンパクトで軽いものが理想的です。

| | |
|---------|-----------------------|
| 懐中電灯 | |
| 携帯ラジオ | |
| 笛・ホイッスル | 閉じ込められたときなど、場所を知らせます。 |
| 避難カード | |
| 避難用マップ | |
| マスク | |

地域防災力向上 シンポジウム in 佐賀 2021

水害から要配慮者の命を守る～求められる地域防災のあり方とは～

日時 2021年1月14日(木) 開場12:30
開会13:00
閉会16:00(予定)

会場 唐津市高齢者ふれあい会館りふれ
唐津市二太子3-155-4

アーカイブ動画

当日の様子は後日、下記URLより視聴できます。
<https://www.chiikibousai-fdma.go.jp>



杵島郡大町町:佐賀豪雨で冠水した順天堂病院周辺(2019年8月)



唐津市相知町:特別養護老人ホーム「作礼荘」で行われた避難訓練(2019年9月)

新型コロナウイルス感染拡大防止に関するお願い

- マスクの着用、咳エチケットへのご協力をお願いいたします。
- 開会中、周りのお客様との会話はご遠慮いただくようお願いいたします。また、マスクの着用がないお客様につきまは、ご退場いただく場合がございます。
- ソーシャルディスタンス確保のため、「使用不可」のサインが書かれている座席のご鑑賞はご遠慮くださいますようお願いいたします。
- お手洗いをご利用の際など、待機列にお並びの場合、他のお客様との間隔を空けてソーシャルディスタンスの確保をお願いいたします。
- 会場入口にアルコール消毒液を設置しておりますので入場時は必ず、手の消毒にご協力いただけますようお願いいたします。
- 開会中、体調が優れなくなった場合はすぐにスタッフにお伝え下さい。
- 再入場をご希望の方は、会場入口にて入館パスをスタッフへご提示をお願いいたします。
- 公演後の退場について、密集防止の為会場スタッフによる退場規制を行います。入口近くのお客様から順番にご案内いたしますので、係員の案内があるまで、お席でお待ちいただきますようお願いいたします。
- シンポジウム参加後14日以内に、新型コロナウイルス感染症への感染が確認された場合は、下記へご連絡ください。

佐賀新聞社 営業局「地域防災力向上シンポジウム」係
TEL0952-28-2195 (9:30～17:30土日祝日を除く)

主催:消防庁、佐賀県、唐津市、公益財団法人佐賀県消防協会 共催:佐賀新聞社
後援:公益財団法人日本消防協会、一般財団法人日本防火・防災協会、全国消防長会、全国地方新聞社連合会

開催趣旨

近年、毎年のように全国各地で大雨や台風、土砂災害などによる被害が発生しております。佐賀県も平成30年以降、3年連続で大雨特別警報が発表される事態となるなど、県民の水害に対する意識は一層高まりを見せています。

一方で、そのような災害が発生すると、高齢者など災害時に配慮を必要とする方(要配慮者)へ被害が集中する傾向があり、こうした被害を最小限に食い止めるためには、消防団や自主防災組織、福祉施設などが連携し、地域全体で要配慮者への支援に取り組んでいくことが求められます。

本シンポジウムは、佐賀県における水害の危険性を理解し、自宅で生活する要配慮者や、福祉施設に入所する要配慮者双方のケースで必要となる支援について理解を深め、災害から要配慮者の命を守るために求められる地域防災のあり方を考える機会とすることを目的に開催するものです。

当日プログラム

※プログラム内容は変更になる場合がございます。

13:00 開会・主催者挨拶

13:20 基調講演

「唐津市の治水の歴史から観る防災対策」

島谷 幸宏 氏 ★九州大学 大学院教授

14:20 休憩

14:35 パネルディスカッション

テーマ「水害から要配慮者の命を守る 地域防災のあり方」

【パネリスト】 福嶋 博愛 氏 ★医療法人「順天堂病院」理事長

松本 文博 氏 ★唐津福祉会「作礼荘」施設長

野崎 五十鈴 氏 ★東唐津・高島地区 民生・児童委員協議会会長

梶山 義人 氏 ★唐津市消防団 副団長

河田 慈人 氏 ★人と防災未来センター 研究員

【コーディネーター】 瀧本 浩一 氏 ★山口大学大学院准教授

15:55 閉会挨拶

16:00 閉会

Memo

出演者プロフィール

基調講演

・島谷 幸宏 氏 ★九州大学 大学院教授

1955年山口県下関市生まれ。建設省入省後、国土交通省九州地方整備局武雄河川事務所長を経て2003年より現職。専門は河川工学、河川環境。佐賀県では松浦川アザメの瀬湿地再生や嘉瀬川石井樋復元に尽力。日本湿地学会会長、応用生態工学会副会長、四万十流域圏学会副会長などを務める。



パネルディスカッション

【パネリスト】

・福嶋 博愛 氏 ★医療法人「順天堂病院」理事長

ープロフィールー

・岡山県出身。1973年、久留米大学医学部卒業。1983年、医療法人順天堂入社、院長を経て1996年理事長就任。大町地域包括支援センター運営委員長、白石警察署犯罪被害者を守る会委員を務める。

ー「地域防災」に係る活動・取組ー

・順天堂病院115床、介護老人保健施設「敬松苑」70床を運営。2019年8月の豪雨では、大雨に備えた避難訓練、資材の備蓄、インフラ設備の保全策に取り組んでいたことや自衛隊はじめ県や町等多くの方々からの支援により、患者入所者全員無事であることができ、その後さらに避難訓練、浸水防御、職員待機体制等を見直し対策の強化に努めている。

・松本 文博 氏 ★唐津福祉会「作礼荘」施設長

ープロフィールー

・佐賀県出身 唐津工業高校昭和51年卒 同年4月新日本製鉄君津製鉄所入社 昭和58年退職 平成4年唐津福祉会特別養護老人ホーム栄荘に入職 日本福祉専門学校卒業 主任介護、主任相談員、事務長を経て平成31年4月作礼荘施設長に就任 資格 介護福祉士、社会福祉士、介護支援専門員等

ー「地域防災」に係る活動・取組ー

・当施設は巖木川の河川に面した高齢障害者の施設として、河川氾濫浸水想定区域等に位置し、防災は常に唐津市及び地域消防団の方々に協力を得ている状況。また建物は、鉄筋コンクリート平屋建てのため、台風等には強いが、洪水は弱く令和元年9月に唐津市危機防災管理防災課、唐津市消防団相知支団の方々と河川氾濫を想定した合同の避難訓練を実施した。令和2年の台風10号の時は民生委員を通じて障害者の方々に施設を開放して、地域防災に協力した。

・野崎 五十鈴 氏 ★東唐津・高島地区 民生・児童委員協議会会長

ープロフィールー

・唐津市高島出身。市内の保育園で保育士として40年勤務。東唐津にあるあけぼの保育園では園長を務め、地域住民との交流による保育の重要性を再認識した。退職後は、地元高島において福祉推進協議会の会長を務めるなど、地域に根差した活動を続けている。令和元年より現職。

ー「地域防災」に係る活動・取組ー

・民生委員法に基づく福祉全般に関する相談・援助活動を実施。災害時には要配慮者の早期避難を支援。避難所運営についても地域連携の共助での災害対応を進めるべく、自主防災組織の活動として効果的な運営方法確立に向けた検討を進めている。

・梶山 義人 氏 ★唐津市消防団 副団長

ープロフィールー

・佐賀県唐津市相知町出身。昭和56年4月に消防団に入団。平成29年4月に相知支団長に就任し、平成31年4月より現職を兼ねる。相知支団5分団350人(条例定員)を率いる。相知地区地域まちづくり会議など市の委員などを務める。

ー「地域防災」に係る活動・取組ー

・消防団と水防団を兼務する唐津市消防団は、出水期を迎える前に水防重点箇所のパトロールや要配慮者の見守り活動を実施しており、大雨時には水防活動と併せて避難誘導を実施。避難誘導は、避難行動要支援者名簿を活用して迅速な避難支援に努めている。

・河田 慈人 氏 ★人と防災未来センター 研究員

ープロフィールー

・京都大学防災研究所時代より、防災教育や地域防災の研究に従事。2018年4月より、現職。自治体職員研修や災害支援に従事している。現在、兵庫県や和歌山県、神戸市の学校防災アドバイザーや栗東市防災委員などを務める。

ー「地域防災」に係る活動・取組ー

・当センターは国の支援を得て平成14年4月に兵庫県が設置し、公益財団法人ひょうご震災記念21世紀研究機構が運営を行っている施設。阪神・淡路大震災の経験を語り継ぎ、その教訓を未来に生かすことを通じて、災害文化の形成、地域防災力の向上、防災政策の開発支援を図り、安全・安心な市民協働・減災社会の実現に貢献することをミッションとしている。

【コーディネーター】

・瀧本 浩一 氏 ★山口大学大学院准教授

ープロフィールー

・山口大学大学院工学研究科修了。博士(工学)。専門は防災とまちづくり、防災教育。消防庁「消防団員の確保方策等に関する検討会」委員など多数の防災関連委員を務める。青森県防災アドバイザー、佐賀県総合防災アドバイザー、広島県防災・減災アドバイザー。大学での教育・研究に加えて、国・地方公共団体・企業等において年間100件超の防災講演・研修等の講師を務め、地域防災リーダーの育成や地域防災力向上のため、精力的に活動。主な著書は「第5版 地域防災とまちづくりーみんなをその気にさせる災害図上訓練」など。

ー「地域防災」に係る活動・取組ー

・佐賀県では、佐賀県総合防災アドバイザーとして、地域住民や自主防災組織・地域防災リーダーを対象とした防災啓発研修や講演会、県内の市町村防災担当職員や消防団員向けの災害・危機管理対応能力向上ための研修会など、多くの研修会・講演会で講師を務めるなどして、地域における防災リーダーの育成や地域防災力の向上に尽力して。